

令和七年 春の課題作文・読書感想文

〈塾長講評〉

今回の中学生向け課題のモチーフである「令和の米騒動」に関連したニュースが今でも頻繁に取り上げられています。農林水産大臣の交代を機に潮目が変わった印象もありますが、まだまだ予断を許さない状況が続いています。課題文でも述べた通り、生産者にとっても消費者にとっても納得のいく新たな農業の姿を模索していかねばならない時期に来ているように感じます。

さて、今回も小学生には読書感想文、中学生には課題作文に取り組んでもらいました。ここからは受賞作品の紹介です。選考会議で熱い議論が交わされましたが、結論としては小学生の部で金賞作品は「該当なし」となりました。小学部の二つの銀賞作品はいずれも物語の中のエピソードから自分自身の体験を振り返り今後の決意表明につなげていました。それは良かったのですが、物語のエピソードと自身の体験談に微妙なズレがあったと感じています。物語で仲間との連携で何かを成し遂げていたり希望を書き出すことで実現性を高めていたりしたのであれば、自身の体験談でもそれらと重なり合う内容を盛り込んで欲しかったところです。加えて、もう一步自分の内面に踏み込んだ記述があれば最高の作品になったと思います。ぜひ今後の参考になさってください。

続けて中学生の部です。中一新人賞として金賞作品一つ、銀賞作品二つ、中二以上から金賞作品一つ、銀賞作品三つが選ばれています。

す。新人賞金賞の作品では「米価の高騰で市民が米を買わなくなり食文化が一変する可能性がある」というくだりがありました。これは作文を提出してから約二週間後の農林水産大臣のコメントをまさに先取りしているかのように感服いたしました。また、中二以上の金賞作品では「以前減反政策で出していた補助金を米作りに使えばいい」「パンや麺の(原料の)小麦を米粉で代用し、米粉の生産量を上げれば米作りの持続が可能となるだろう」といった具体的な提案があったことに加えて、自身がフェイクニュースを意図せずに発信してしまう可能性を危惧して注意していききたいとまとめていた点が高く評価されました。

世の中では様々な情報が溢れています。オールドメディアと位置付けられるテレビや新聞などのニュースの他にインターネットを利用したウェブ情報も存在します。その中には真偽が不明なものや偏向したものも含まれています。情報に接した際に、我々は今まで以上にそれを鵜呑みにしたりせず、自分自身の頭で考えていかなければならなくなってきました。その際に大事になるのが読書や教科書の勉強を通じて得られる基礎知識です。ついつい「こんなのを勉強して意味があるの?」と感じてしまうこともあるでしょうが、そういった基礎知識の集合体が自分自身の認識や判断を構成する土台になるのだと考えるようにしてください。

最後になりますが、中学生向きの課題作文には講師も挑戦しています。講師作品の中で皆さんのお手本となりそうなものを掲載してありますのでぜひ目を通し、共感できるものは取り入れてください。